

総括的評価のためのルーブリック

実践者: 上野振宇 / テーマ: 中国語圏「修学(研修)旅行」企画コンペティション

評価基準	目標以上の到達度 10点	目標に到達 7点	目標までもう少し 4点	目標まで努力が必要 1点
1:事前のニーズ調査	分担して、来場者の関心や不安点の傾向が分かるほどの調査ができた。	プラン作成につながる調査ができた。	プラン作成にはあまり役立たなかったが、分量は満たしている。	調査対象に偏りがあり、調査量も少ない。
2:グループ内の協働	リーダーシップや協調性を発揮している。	積極的であり、対立した意見でも受け入れられる。	受け身が多く、自分の意見がない。	後ろ向きな発言が多く、話し合いに参加しない。
3:各種資料作成と貢献度	PPT 以外の資料作成や貢献度が非常に高い。	苦手な作業も向上心を持って取り組めた。	指示待ちで苦手な作業を放棄している。	他のメンバーに任せっきり。
4:旅程の実現性と充実性	悪天候などのトラブルへの対応や代案まで用意されている。	無理無駄のない旅程であり、研修に必要な事前学習まで考えられている。	学んでほしいテーマや目的が曖昧な研修内容になっている。	移動時間などに無理があり、研修内容が乏しい。
5:中国語の正確性と分量	予想される場面が網羅され、正確な発音で発表できた。	メインの場面で必要な中国語は正確性も高く、分量も満たしている。	分量は少ないが、正確性だけは及第点だった。	正確性も低く、分量も少ない。
6:日本語によるプレゼンテーション	原稿を覚えて来場者の表情を見ながら、興味を喚起する発表ができた。	自分達の言葉で、必要な説明を必要な分量になっている。	コピペした文章に統一性を持たせている。	原稿ばかりを見て、コピペした文章を読み上げているだけ。
7:自己評価	正確な自己分析ができ、改善手段まで考えられていた。	グループ内評価との隔たりが少なく、全ての活動の正確な自己分析ができている。	グループ内評価との隔たりが少ないが、一部の活動の自己分析にとどまっている。	グループ内の評価とかけ離れた自己評価や一部の活動に絞った自己評価になっている。
8:他グループへの的確な指摘	全グループへの改善点や強みの指摘が、10に採用された。	全グループへの改善点や強みの指摘が的確だった。	一部のグループへの指摘が的確だった。	各ライバル企業(グループ)の発表を見ておらず、改善点や強みを発見できない。
9:来場者の投票、意見、提案	獲得票数が最多で、興味や関心を持った意見が多い。	獲得票数が上位だった。	獲得票数が下位だった。	獲得票数も少なく、意見や提案も全くない。
10:発表後の改善	7~9の全ての意見を踏まえた改善ができた。	7~9から2つの意見を踏まえた改善ができた。	7~9のいずれか1つの意見を踏まえた改善ができた。	全く改善が見られない。